

透析センター チーム医療でがんばっています！



46台の装置を備えた当院透析センター

透析とは腎臓の機能を補う治療法で、本来なら尿に排泄されるべき老廃物や水分を血液の中から除去するものです。透析には血液を体外の回路で処理する血液透析と、腹膜を介する腹膜透析の2つの方法があり、疾患やライフスタイルで治療方法を選択します。2007年末で日本では約27万5千人の方が透析療法を受けており、毎年1万人程度の増加が見られています。透析が必要となった腎不全の原因疾患は2000年から慢性腎炎を抜いて糖尿病が第1位となっています。また日本の透析技術は世界最先端であり、医療費の補助も受けることができます。

専門性を持ったスタッフが チームを組んでいます

当院の透析センターは、同時透析可能ベッド数は46台と他の施設と比較しても大きく、約90名の方が透析を受けています。以前から専門医が勤務していた関係から、中には透析歴が40年近い元気な患者様もいらっしゃいます。また年齢が90歳を超える患者様も数名おられますが、ご家族の協力や介護保険を利用しながら元気に通院されています。

次にスタッフですが、医師と共に高い専門性を持った看護師16名と、臨床工学技士6名がチームとして勤務しており、彼らの果たす役割は非常に大きいものがあります。週3回定期的に患者様が来院しますので、看護師は透析中はもちろん、日常生活まで含めた細部にわたる観察とケアが必要となります。また臨床工学技士は患者様への針刺から機器のメンテナンスまで

腎臓内科医長 吉本 宏

行うエキスパートです。さらに日常的に栄養士も指導にわり、食事・栄養面でのサポートを行っています。

透析以外の体外循環療法もやっています

さらに当院透析センターの特徴として、透析以外の体外循環療法（血液をいったん体外に出し、老廃物や病気の原因となっている物質の除去を行う治療）による様々な疾患に対する治療への対応の幅広さがあります。疾患の例として、重症細菌感染症・重症肝炎・炎症性腸疾患などが挙げられます。また、他の病院で透析を受けている方が心臓カテーテル検査、痔や骨折の手術のために入院されることも多く、近隣の施設との連携も大切な役割と考えています。

このように当センターは医師を中心としたチーム医療を行っており、患者様が安心して透析、体外循環療法を受けられるよう努力しています。また幅広い対応が可能な、Yes we can!と言える科でありたいと思います。

原田看護科長から一言

透析療法はほとんどの方が一生続ける治療です。患者様の把握にあたっては看護の原点にある「人間を全人的に把握する」という高度な能力を要求される分野だと感じています。より深くかかわる事によって得られる慢性疾患ならではの達成感も大きいものがあります。高い技術

・知識・態度が求められる現場ですが、「看護の醍醐味」を間近で感じる事ができる職場だと思います。



透析室のスタッフ(前列中央が筆者・前列左から2番目が原田看護科長)